

DRUG

INFORMATION



2010 No. 22

平成22年9月3日発行

1. 医薬品の採用・中止・変更について 1
—平成22年9月2日 薬事委員会結果報告—
2. 新規登録医薬品情報 3
 - 採用医薬品(新規試用医薬品)—3
 - 採用医薬品(採用保留となっていた医薬品)—6
 - 製剤変更医薬品—7

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室
(内線7083)

※ Drug Information は医学部・附属病院 HP の下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/web/drug-info/>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
di8931@gifu-u.ac.jp (担当：安田)

医薬品の採用・中止・変更について

—平成 22 年 9 月 2 日 薬事委員会結果報告—

採用医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
《新規試用医薬品》	
グラセプターカプセル 0.5mg(タクロリムス水和物)	免疫抑制剤
チャンピックス錠 1mg(パレニクリン酒石酸塩)	禁煙補助薬
ティーエスワン配合顆粒 T20(テガフル、ギメラシル、オテラシルカリウム)	代謝拮抗剤
ティーエスワン配合顆粒 T25(テガフル、ギメラシル、オテラシルカリウム)	代謝拮抗剤
リリカカプセル 75mg(プレガバリン)	帯状疱疹後神経痛治療剤
ロゼレム錠 8mg(ラメルテオン)	入眠改善剤(メラトニン受容体アゴニスト)
コソプト配合点眼液 5mL(ドルゾラミド塩酸塩、チモロールマレイン酸塩)	緑内障・高眼圧症治療配合剤
フランセチン・T・パウダー 10g(フラジオマイシン硫酸塩、結晶トリブシン)	抗菌性物質製剤
アリクストラ皮下注 1.5mg(フォンダパリヌクスナトリウム)	合成 Xa 阻害剤
ピクトーザ皮下注 18mg(リラグルチド)	ヒト GLP-1 アナログ注射液
フエロン注射用 600 万国単位(インターフェロン β)	天然型インターフェロン β 製剤
リコモジュリン点滴静注用 12800 単位(トロンボモジュリンアルファ)	血液凝固阻止剤
《採用保留となっていた医薬品》	
イメンドカプセル 80mg(アプレピタント)	選択的 NK ₁ 受容体拮抗型制吐剤
イメンドカプセル 125mg(アプレピタント)	選択的 NK ₁ 受容体拮抗型制吐剤

平成 22 年 9 月 22 日より処方開始予定です。

採用中止医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
アヘンチンキ	アヘンアルカロイド系麻薬
ツムラ当帰四逆加呉茱萸生姜湯エキス顆粒	漢方製剤
テシプール錠 1mg(セチプチリンマレイン酸塩)	四環系抗うつ剤
ドルナー錠 20 μ g(ベラプロストナトリウム)	経口プロスタサイクリン(PGI ₂)誘導体制剤
ヒスロン錠 5mg(メドロキシプロゲステロン酢酸エステル)	経口黄体ホルモン製剤
フルスタン錠 0.3 μ g(ファレカルシトリオール)	活性型ビタミン D ₃ 製剤
10%サリチル酸ワセリン軟膏(サリチル酸)	寄生性皮膚疾患剤
タチオン点眼用 2%(グルタチオン)	白内障治療剤
バクトロバン鼻腔用軟膏 2%(ムピロシンカルシウム水和物)	鼻腔内 MRSA 除菌剤
注射用フィルデシン 3mg(ビンデシン硫酸塩)	ピンカアルカロイド系抗悪性腫瘍剤
ペプレオ注射用 5mg(ペプロマイシン硫酸塩)	抗腫瘍性抗生物質
ロイコプロール点滴静注用 800 万単位(ミリモスチム)	白血球減少症治療剤
診断用アレルゲン皮内エキス治療用アレルゲンエキス皮下注ハウスダスト	アレルゲン検査・気管支喘息の特異的減感作療法薬

院内の在庫がなくなり次第、処方中止とします。

製剤変更医薬品

医薬品名〈旧製剤 ⇒ 新製剤〉	薬品分類
スピリーバ吸入用カプセル 18μg ⇒ スピリーバ 2.5μg レスピマット 60 吸入	長時間作用型吸入気管支拡張剤
メプチンキッドエア―5μg ⇒ メプチンキッド 5μg エア―100 吸入 *	定量噴霧式気管支拡張剤
ネスブ静注用 20μg/1mL プラシリンジ ⇒ ネスブ注射液 20μg/1mL プラシリンジ	持続型赤血球造血刺激因子製剤
ネスブ静注用 60μg/0.6mL プラシリンジ ⇒ ネスブ注射液 60μg/0.6mL プラシリンジ	持続型赤血球造血刺激因子製剤

旧製剤の在庫がなくなり次第、製剤変更とします。 *:院外専用品目

販売中止医薬品

医薬品名(成分名)	薬品分類
ソニフィラン筋注 20mg(シゾフィラン) ¹⁾	抗悪性腫瘍剤
アルサルミン錠 250mg(スクラルファート水和物) ²⁾	胃炎・消化性潰瘍治療剤
コリマイ C 点眼液(コリスチンメタンスルホン酸ナトリウム、クロラムフェニコール) ²⁾	眼科用抗生物質製剤
ストックリンカプセル 200mg(エファビレンツ) ²⁾	抗ウイルス化学療法剤
ノリニール T28 錠(ノルエチステロン、エチニルエストラジオール) ²⁾	経口避妊剤
ハーモニック―F ²⁾	経腸栄養剤

1) 院内採用品目:在庫がなくなり次第、処方中止とします。

2) 院外専用品目:流通在庫がなくなり次第、もしくは平成 23 年 3 月 31 日付で処方中止とします。

【採用医薬品(新規試用医薬品)】

＊タクロリムス水和物 Tacrolimus Hydrate

【商】グラセプター Graceptor アステラス
内用：カプセル剤(徐放性)㉔

1 カプセル中 0.5mg [509.5 円/Cp]

【効】①下記の臓器移植における拒絶反応の抑制：(1)腎移植、(2)肝移植、(3)心移植、(4)肺移植、(5)脾移植 ②骨髄移植における拒絶反応及び移植片対宿主病の抑制

【用】①(1)移植 2 日前より 0.15～0.2mg/kg を 1 日 1 回朝投与する。(2)術後初期には 0.1～0.15mg/kg を 1 日 1 回朝投与する。〔プログラフ経口製剤から切り替える場合〕①②同一 1 日用量を 1 日 1 回朝投与する。

【警】◆本剤の投与において、重篤な副作用(腎不全、心不全、感染症、全身痙攣、意識障害、脳梗塞、血栓性微小血管障害、汎血球減少症等)により、致死的な経過をたどることがあるので、緊急時に十分に措置できる医療施設及び本剤についての十分な知識と経験を有する医師が使用すること。◆臓器移植における本剤の投与は、免疫抑制療法及び移植患者の管理に精通している医師又はその指導のもとで行うこと。◆本剤と同一成分を含むプログラフ経口製剤と本剤の切り換えに際しては、血中濃度を測定することにより製剤による血中濃度の変動がないことを確認すること。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、シクロスポリン又はボセンタン投与中の患者、カリウム保持性利尿剤投与中の患者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【副】急性腎不全、ネフローゼ症候群、心不全、不整脈、心筋梗塞、狭心症、心膜液貯留、心筋障害、中枢神経系障害(可逆性後白質脳症症候群、高血圧性脳症等)、脳血管障害、血栓性微小血管障害、汎血球減少症、血小板減少性紫斑病、イレウス、Stevens-Johnson 症候群、呼吸困難、感染症、進行性多巣性白質脳症、BK ウイルス腎症、悪性腫瘍(リンパ腫等)、脾炎、糖尿病、高血糖

【妊】禁忌 【授】授乳回避

【小】①(1)(3)(4)(5)・②未確立

＊バレニクリン酒石酸塩 Varenicline Tartrate

【商】チャンピックス Champix ファイザー
内用：錠剤㉔ 1 錠中 1mg [237.4 円/錠]

【効】ニコチン依存症の喫煙者に対する禁煙の補助

【用】第 1～3 日目は 0.5mg を 1 日 1 回食後に投与、第 4～7 日目は 0.5mg を 1 日 2 回朝夕食後に投与、第 8 日目以降は 1mg を 1 日 2 回朝夕食後に投与する。本剤の投与期間は 12 週間とする。

【警】禁煙は治療の有無を問わず様々な症状を伴うことが報告されており、基礎疾患として有している精神疾患の悪化を伴うことがある。本剤との因果関係は明らかではないが、抑うつ気分、不安、焦燥、興奮、行動又は思考の変化、精神障害、気分変動、攻撃的行動、敵意、自殺念慮及び自殺が報告されているため、本剤を投与するには患者の状態を十分に観察すること。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】Stevens-Johnson 症候群、多形紅斑、血管浮腫

【妊】未確立、有益のみ

【授】授乳回避

【小】未確立

【商】ティーエスワン TS-1 大鵬
内用：顆粒剤㉔

1 包(0.2g、0.25g)中

テガフル 20mg、25mg、

ギメラシル 5.8mg、7.25mg、

オテラシルカリウム 19.6mg、24.5mg

[858.2 円/包、1,032.1 円/包]

【効】胃癌、結腸・直腸癌、頭頸部癌、非小細胞肺癌、手術不能又は再発乳癌、脾癌、胆道癌

【用】初回投与量(1 回量)を次の基準量(1.25m²未満：40mg/回、1.25m²以上 1.5m²未満：50mg/回、1.5m²以上：60mg/回)とし、朝食後及び夕食後の 1 日 2 回、28 日間連日投与し、その後 14 日間休薬する。これを 1 クールとして投与を繰り返す。増減量の段階を 40mg、50mg、60mg、75mg/回とする。増量は本剤の投与によると判断される臨

床検査値異常(血液検査、肝・腎機能検査)及び
消化器症状が発現せず、安全性に問題がなく、
増量できると判断される場合に初回基準量から
一段階までとし、75mg/回を限度とする。減量は
一段階ずつ行い、最低投与量は40mg/回とする。

【警】◆本剤を含むがん化学療法は、緊急時に
十分対応できる医療施設において、がん化学療法
に十分な知識・経験を持つ医師のもとで本療法
が適切と判断される症例についてのみ実施する
こと。適応患者の選択にあたっては、各併用
薬剤の添付文書を参照して十分注意すること。
また、治療開始に先立ち、患者又はその家族に
有効性及び危険性を十分説明し、同意を得てから
投与すること。◆本剤は従来の経口フルオロ
ウラシル系薬剤とは投与制限毒性(Dose Limiting
Toxicity、DLT)が骨髄抑制という点で異なり、特
に臨床検査値に十分注意する必要がある。頻回
に臨床検査を実施すること。◆劇症肝炎等の重
篤な肝障害が起こることがあるので、定期的に
肝機能検査を行う等観察を十分に行い、肝障害
の早期発見に努めること。肝障害の前兆又は自
覚症状と考えられる食欲不振を伴う倦怠感等の
発現に十分に注意し、黄疸(眼球黄染)があらわ
れた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置
を行うこと。◆他のフッ化ピリミジン系抗悪性
腫瘍剤、これらの薬剤との併用療法(ホリナート
・テガフル・ウラシル療法等)、あるいは抗
真菌剤フルシトシンとの併用により、重篤な血
液障害等の副作用が発現するおそれがあるので、
併用を行わないこと。◆本剤使用にあたって
は添付文書を熟読し、用法・用量を厳守して
投与すること。

【禁】本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴
のある患者、重篤な骨髄機能抑制のある患者、
重篤な腎障害のある患者、重篤な肝障害のある
患者、他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤(こ
れらの薬剤との併用療法を含む)を投与中の患者、
フルシトシンを投与中の患者、妊婦又は妊娠し
ている可能性のある婦人

【副】骨髄抑制、溶血性貧血、DIC、重篤な肝障
害(劇症肝炎等)、脱水症状、重篤な腸炎、間質
性肺炎、心筋梗塞、狭心症、不整脈、心不全、
重篤な口内炎、消化管潰瘍、消化管出血、消化
管穿孔、急性腎不全、Stevens-Johnson 症候群、
Lyell 症候群、精神神経障害、急性腭炎、横紋筋

融解症、嗅覚脱失、肝硬変★、ネフローゼ症候群★

【妊】禁忌

【授】授乳中止

【低・新・乳・幼・小】未確立

*プレガバリン Pregabalin

【商】リリカ Lyrica

ファイザー

内用：カプセル剤 1カプセル中75mg

[167.1 円/Cp]

【効】帯状疱疹後神経痛

【用】初期用量として1日150mgを1日2回に分けて
投与し、その後1週間以上かけて1日300mgまで漸増
する。1日最高用量は600mgを超えないこととし、い
ずれも1日2回に分けて投与する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】心不全、肺水腫、意識消失、横紋筋融解症、
腎不全、血管浮腫

【妊】未確立、有益のみ

【授】授乳回避

【低・新・乳・幼・小】未確立

*ラメルテオン Ramelteon

【商】ロゼレム Rozerem

武田

内用：錠剤 1錠中8mg

[82.6 円/錠]

【効】不眠症における入眠困難の改善

【用】1回8mgを就寝前に投与する。

【禁】本剤の成分に対する過敏症の既往歴のある患者、
高度な肝機能障害のある患者、フルボキサミンマレイン
酸塩を投与中の患者

【副】アナフィラキシー様症状★

【妊】有益のみ

【授】回避、投与する場合は授乳中止

【低・新・乳・幼・小】未確立

【商】コソプト Cosopt

参天

外用：点眼剤 1mL 中ドルゾラミド塩酸塩 10mg、
チモロールマレイン酸塩 5mg(5mL) [668 円/mL]

【効】次の疾患で他の緑内障治療薬が効果不十分な
場合：緑内障、高眼圧症

【用】1回1滴、1日2回点眼する。

【禁】気管支喘息又はその既往歴のある患者、
気管支痙攣・重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者、
コントロール不十分な心不全・洞性徐脈・

房室ブロック(Ⅱ、Ⅲ度)・心原性ショックのある患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、重篤な腎障害のある患者

【副】眼類天疱瘡、気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全、心ブロック、うっ血性心不全、脳虚血、心停止、脳血管障害、SLE、Stevens-Johnson 症候群、TEN

【妊】未確立、有益のみ

【授】授乳中止

【低・新・乳・幼・小】未確立

【貯】遮光

【商】フランセチン・T Francetin T 持田
外用：散剤 1g 中フラジオマイシン硫酸塩 10mg、
結晶トリプシン 2,500USP 単位 [23.9 円/g]

【効】びらん・潰瘍の二次感染、子宮腔部びらん

【用】適量を患部に散布する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、フラジオマイシン・ストレプトマイシン・カナマイシン・ゲンタマイシン等のアミノ糖系抗生物質・バシトラシン・トリプシン又はキモトリプシンに対し過敏症の既往歴のある患者、創面から出血している患者、重篤な肝障害・腎障害のある患者

【副】ショック、腎障害、難聴

*フォンダパリヌクスナトリウム

Fondaparinux Sodium

【商】アリクストラ Arixtra GSK
注射：液剤 1 筒(0.3mL)中 1.5mg [1,545 円/筒]

【効】静脈血栓塞栓症の発現リスクの高い次の患者における静脈血栓塞栓症の発症抑制：下肢整形外科手術施行患者、腹部手術施行患者

【用】2.5mg を 1 日 1 回皮下投与する。腎障害のある患者に対しては、腎機能の程度に応じて 1.5mg、1 日 1 回に減量する。

【警】脊椎・硬膜外麻酔あるいは腰椎穿刺等との併用により、穿刺部位に血腫が生じ、神経の圧迫による麻痺があらわれるおそれがある。併用する場合には神経障害の徴候及び症状について十分注意し、異常が認められた場合には直ちに適切な処置を行うこと。

【禁】本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者、出血している患者(後腹膜出血、頭蓋内出血、脊椎内出血、あるいは他の重要器官にお

ける出血等)、急性細菌性心内膜炎の患者、重度の腎障害(クレアチニークリアランス 20mL/分未満)のある患者

【副】出血

【妊】有益のみ

【授】授乳回避

【小】未確立

*リラグルチド Liraglutide

【商】ビクトーザ Victoza ノボ

注射：液剤(●) 1 筒(3mL)中 18mg

[9,960 円/キット]

【効】2 型糖尿病(ただし、下記のいずれかの治療で十分な効果が得られない場合に限り)：1) 食事療法、運動療法のみ 2) 食事療法、運動療法に加えてスルホニルウレア剤を使用

【用】0.9mg を 1 日 1 回朝又は夕に皮下注する。1 日 1 回 0.3mg から開始し、1 週間以上の間隔で 0.3mg ずつ増量する。1 日 0.9mg を超えないこと。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、糖尿病性ケトアシドーシス・糖尿病性昏睡・1 型糖尿病患者、重症感染症・手術等の緊急の場合

【副】低血糖、膵炎

【妊】未確立

【授】授乳回避

【低・新・乳・幼・小】未確立

【貯】2～8℃、遮光

*インターフェロンβ Interferon Beta

【商】フェロン Feron 第一三共
注射：(●) 1 瓶中 600 万国単位 [45,495 円/瓶]

【効】①膠芽腫、髄芽腫、星細胞腫 ②皮膚悪性黒色腫 ③HBe 抗原陽性でかつ DNA ポリメラーゼ陽性の B 型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ④C 型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善 ⑤リバビリンとの併用による以下のいずれかの C 型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善：(1)血中 HCV-RNA 量が高値の患者、(2)インターフェロン製剤単独療法で無効の患者又はインターフェロン製剤単独療法後再燃した患者 ⑥C 型代償性肝硬変におけるウイルス血症の改善(HCV セログループ 1 の血中 HCV-RNA 量が高い場合を除く)

【用】①〔局所投与〕添付溶解液の適量に溶解し、1 日 100 万～600 万国単位を髄腔内(腫瘍

内を含む)に投与する。〔点滴静注〕生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液等に溶解し、1日100万～600万国単位を点滴静注する。②添付溶解液の適量に溶解し、病巣あたり1日1回40万～80万国単位を腫瘍内又はその周辺部に投与する。1日総投与量は100万～300万国単位とする。③〔静注・点滴静注〕生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液等に溶解し、1回300万国単位を初日1回、以後6日間1日1～2回、2週目より1日1回静注又は点滴静注する。④〔静注・点滴静注〕使用にあたっては、HCV-RNAが陽性であることを確認したうえで行う。生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液等に溶解し、1回300万～600万国単位を1日1回連日静注又は点滴静注する。⑤使用にあたっては、HCV-RNAが陽性であることを確認したうえで行う。生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液等に溶解し、1日600万国単位で投与を開始し、投与後4週間までは連日、以後週3回静注又は点滴静注する。⑥〔静注・点滴静注〕使用にあたっては、HCV-RNAが陽性であることを確認したうえで行う。生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液等に溶解し、1日600万国単位で投与を開始し、投与後6週間までは1日300万～600万国単位を連日、以後1日300万国単位を週3回静注又は点滴静注する。

【警】本剤の投与により間質性肺炎、自殺企図があらわれることがあるので、「使用上の注意」に十分留意し、患者に対し副作用発現の可能性について十分説明すること。

【禁】自己免疫性肝炎の患者、小柴胡湯を投与中の患者、本剤及びウシ由来物質に対し過敏症の既往歴のある患者、ワクチン等の生物学的製剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】〈本剤単独時〉間質性肺炎、重篤なうつ状態、自殺企図、躁状態、攻撃的行動、糖尿病、自己免疫現象(甲状腺機能異常、溶血性貧血、インスリン依存型糖尿病の増悪又は発症、肝炎★、潰瘍性大腸炎の悪化★、関節リウマチの悪化★、急性膵炎★)、ショック、Stevens-Johnson症候群、重篤な肝障害、急性腎不全、溶血性尿毒症症候群、脳出血、消化管出血、球後出血、脳梗塞、心不全、狭心症、心筋梗塞、敗血症、網膜症、痙攣、認知症様症状(特に高齢者)、麻痺、汎血球減少、白血球減少、顆粒球減少、血小板減少、ネフローゼ症候群 〈リバビリンとの併用時〉貧血、

自己免疫現象(甲状腺機能異常)、重篤な肝障害、脳梗塞、重篤なうつ状態、自殺企図、躁状態、攻撃的行動、白血球減少、顆粒球減少、血小板減少

【妊】〈本剤単独〉未確立、有益のみ
〈リバビリンとの併用〉禁忌

【授】〈リバビリンとの併用〉回避、投与する場合は授乳回避

【小】未確立

【貯】10℃以下

*トロンボモジュリンアルファ

Thrombomodulin Alfa

【商】リコモジュリン Recomodulin 旭化成
注射：1瓶中12,800単位 [38,352円/瓶]

【効】汎発性血管内血液凝固症(DIC)

【用】1日1回380単位/kgを約30分かけて点滴静注する。

【禁】頭蓋内出血・肺出血・消化管出血(継続的な吐血・下血、消化管潰瘍による出血)のある患者、本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【副】出血

【妊】禁忌 【授】授乳回避

【低・新・乳・幼・小】未確立

【採用医薬品(採用保留となっていた医薬品)】

*アプレピタント Aprepitant

【商】イメンド Emend 小野
内用：カプセル剤

1カプセル中80mg [3,263.8円/Cp]

125mg [4,774.7円/Cp]

【効】抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)(遅発期を含む)

【用】他の制吐剤との併用において、抗悪性腫瘍剤投与1日目は125mgを、2日目以降は80mgを1日1回、投与する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者、ピモジド投与中の患者

【副】Stevens-Johnson症候群、穿孔性十二指腸潰瘍、アナフィラキシー反応

【妊】未確立、有益のみ

【授】授乳中止

【低・新・乳・幼・小】未確立

【製剤変更医薬品】

＊チオトロピウム臭化物水和物

Tiotropium Bromide Hydrate

【商】スピリーバ<レスピマット>

Spiriva Respimat

ベーリンガー

外用：吸入剤 1 噴霧中 2.5μg

[6,767.7 円/キット]

【効】慢性閉塞性肺疾患（慢性気管支炎、肺気腫）の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解

【用】1 回 2 吸入 (5μg) を 1 日 1 回吸入投与する。

【禁】緑内障の患者、前立腺肥大等による排尿障害のある患者、アトロピン及びその類縁物質あるいは本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者

【副】心不全、心房細動、期外収縮、イレウス

【妊】未確立、有益のみ

【授】回避、投与する場合は授乳中止

【低・新・乳・幼・小】未確立

【貯】冷凍不可

＊プロカテロール塩酸塩水和物

Procaterol Hydrochloride Hydrate

【商】メプチン<キッドエア> Meptin 大塚

外用：吸入剤 1 キット 2.5mL (1 噴霧 5μg)

[781.5 円/キット]

【効】下記疾患の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解：気管支喘息、慢性気管支炎、肺気腫

【用】成人 1 回 20μg (4 吸入)、小児 1 回 10μg (2 吸入) を吸入する。

【禁】本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【副】ショック、アナフィラキシー様症状、重篤な血清カリウム値の低下

【妊】未確立、有益のみ

【授】授乳回避

【低・新・乳】未確立

＊ダルベポエチンアルファ Darbepoetin Alfa

【商】ネスプ Nesp

協和発酵キリン

注射：液剤(罎)

1 シリンジ (1mL) 中 20μg [5,564 円/筒]

1 シリンジ (0.6mL) 中 60μg [14,031 円/筒]

【効】腎性貧血

【用】○血液透析患者：〈初回用量〉週 1 回

20μg を静注する。〈エリスロポエチン製剤からの切替え初回用量〉週 1 回 15～60μg を静注する。

〈維持用量〉貧血改善効果が得られたら、週 1 回 15～60μg を静注する。週 1 回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での 1 回の投与量の 2 倍量を開始用量として、2 週に 1 回投与に変更し、2 週に 1 回 30～120μg を静注することができる。最高投与量は、1 回 180μg とする。○腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者：〈初回用量〉2 週に 1 回 30μg を皮下又は静注する。〈エリスロポエチン製剤からの切替え初回用量〉2 週に 1 回 30～120μg を皮下又は静注する。〈維持用量〉貧血改善効果が得られたら、2 週に 1 回 30～120μg を皮下又は静注する。2 週に 1 回投与で貧血改善が維持されている場合には、その時点での 1 回の投与量の 2 倍量を開始用量として、4 週に 1 回投与に変更し、4 週に 1 回 60～180μg を皮下又は静注することができる。最高投与量は、1 回 180μg とする。

【禁】本剤の成分又はエリスロポエチン製剤に過敏症の患者

【副】脳梗塞、脳出血、肝機能障害、黄疸、高血圧性脳症、ショック、アナフィラキシー様症状、赤芽球癆、心筋梗塞、肺梗塞

【妊】未確立、原則禁忌、投与する場合は有益のみ

【授】未確立、原則禁忌、投与する場合は授乳回避

【低・新・乳・幼・小】未確立

【貯】遮光、2～8℃